

鬼頭健吾、小金沢健人、名和晃平、村瀬恭子
「シュヴァルツ・ヴァイス」

日時：2026/11/6（金）～11/28（土）12:00 - 18:00 日月祝休廊 *11/8（日）は開廊

会場：imura art gallery 協力：SCAI THE BATHHOUSE、Taka Ishii Gallery

アーティストトーク、レセプション：11/6（金）17:00 - 19:00



イムラアートギャラリーでは、11月6日（木）より、鬼頭健吾、小金沢健人、名和晃平、村瀬恭子によるグループ展「シュヴァルツ・ヴァイス」を開催いたします。

展覧会タイトル「シュヴァルツ・ヴァイス」は、ドイツ語で黒／白という意味です。本展の参加作家は皆、ドイツでの在住・滞在経験があり、今回のグループ展の通奏低音としてドイツ語のタイトルを採用しました。この展覧会タイトルにあわせて、本展の出品作品は、モノクロームの作品を基調にしています。

日本語では、通常、モノクロームのことを白黒と表現しますが、ドイツでは英語と同様、黒白の順で表記します。ドイツ人にとって、シュヴァルツ（黒）は特別な意味を持つようで、単に黒色というだけでなく、比喩的に使われることもあります。実際、ドイツの国旗に使われている黒は、過去の抑圧や苦悩を表しているとも言われています。一方、シュヴァルツ・ヴァルトと呼ばれるドイツ南西部の黒い森は、ドイツ人にとって帰る場所、畏敬の念を抱く存在でもあるようです。

黒白、ドイツというキーワードで思い出されるヴィム・ヴェンダースの『都会のアリス』は、ヴェンダースがモノクロで撮影した1974年公開の映画です。小津安二郎の影響を色濃く感じさせる本作は、黒と白、あるいはグレーの世界の中、静かに物語が進みます。また、モノクロームの可能性を探求した作品群〈グレイ・ペインティング〉で知られるゲルハルト・リヒターにとって、「グレイ」は制作のテーマの一つであり「無」を象徴すると言われています。リヒター自身は、グレイをいかなるイデオロギーにも染まらない「無条件の絵画」であると語っています。

imura art gallery

〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31
開廊時間：火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00
休廊日：日・月・祝祭日

Tel : 075-761-7372
Fax : 075-761-7362
E-mail : info@imuraart.com



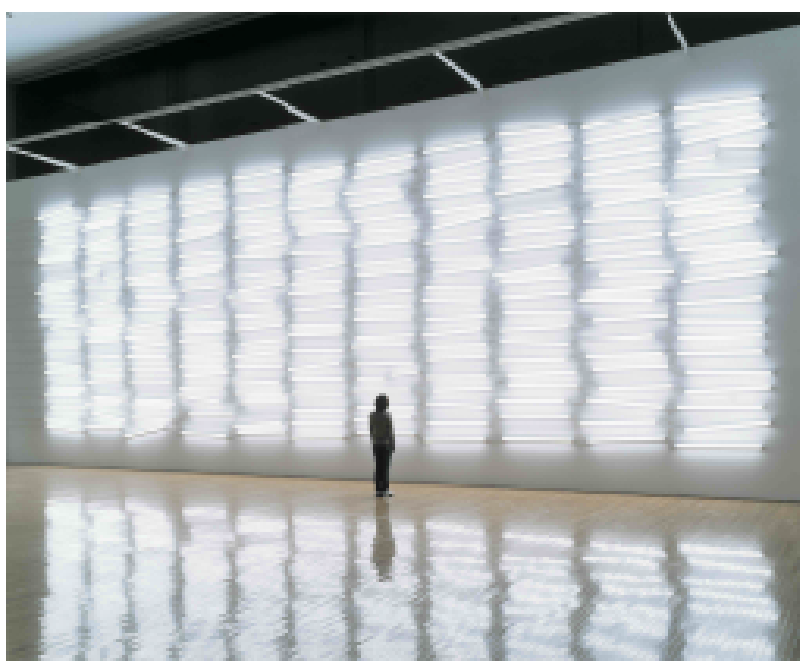
京阪電車：「神宮丸太町」4番出口より徒歩3分
市バス：「丸太町京阪前」下車徒歩2分

「一音として完結し得る音響の複雑性、その洗練された一音を聴いた日本人の感受性が間という独自の観念をつくりあげ、その無音の沈黙の間は、実は、複雑な一音と拮抗する無数の音の奔めく間として認識されているのである。」（武満徹『武満徹著作集 1』新潮社、2000 年、200 頁、初出は 1971 年。）

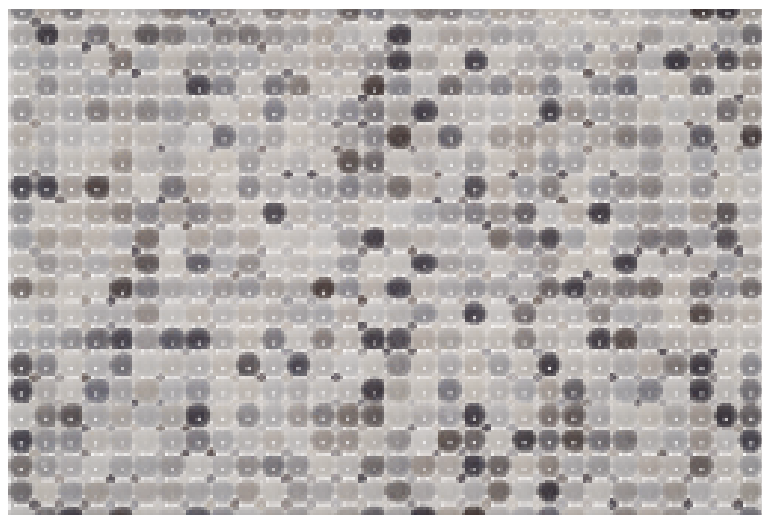
武満が無音の沈黙の間を、無数の音の奔く（ひしめく）間、と表現したように、黒と白も相反する現象ではなく、黒という無数の粒子の中にある空の部分を白、と捉えることもできるでしょう。もしくは、リヒターのように黒と白の間に無限に広がるグラデーションとして「グレイ」を「無」の象徴として描写する作家もいます。黒と白、光と影、夜と朝。モノクロームから連想されるそれらの間、連続する階調の、そのあわいを掬い取るような作品を各作家の解釈にて提示いたします。



鬼頭健吾 《star cluster》2026
oil on canvas, 1600x1300mm



小金沢健人 《電流の繁殖》2009
223 本の蛍光管, タイマー



名和晃平 《PixCell-Random》（部分）2026
Mixed media, 523×321×49 mm
Photo: Nobutada Omote



村瀬恭子 《Pansy on the rocks》2024
Pastel pencil, pigment, oil on cotton, 2273x1821mm
Photo: Kenji Takahashi

鬼頭健吾 Kengo Kito

1977 年 愛知県生まれ。

名古屋芸術大学絵画科洋画コース卒業、京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。

1999 年 アーティストによる自主運営スペース「アートスペース dot」(愛知県) を設立、運営に参加するなど名古屋芸術大学在学中から作家活動を開始。2008-09 年 五島記念文化財団の助成を受けニューヨークに滞在。2010 年 文化庁新進芸術家海外研修員としてドイツ、ベルリンに滞在。2015 年 帰国後、群馬県を拠点に活動。現在、京都芸術大学大学院教授。

主な個展

- 2015 「Migration “回遊”」 群馬県立近代美術館、群馬
- 2017 「YCC Temporary 鬼頭健吾」 YCC ヨコハマ創造都市センター、神奈川
- 2017 「鬼頭健吾 Multiple Star」 ハラ ミュージアム アーク、群馬
- 2020 「Full Lightness」 京都市京セラ美術館、京都
- 2021 「鬼頭健吾 Untitled(hula hoop)」 上野の森美術館ギャラリー、東京
- 2021 「RECONNECTING」 Japan House、ロサンゼルス
- 2022 「Lines」 KAAAT 神奈川芸術劇場、神奈川
- 2023 「Unity on the Hudson」 Hudson River Museum、ニューヨーク
- 2024 「buoyancy of color」 anonymous art project、Zero Base 神宮前、東京
- 2025 anonymous art project 第 19 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展
日本館コラテラル展示 ヴェネチア国立考古学博物館 中庭と展示室内 (P.za San Marco, 17/52, Venezia, Italy)
ヴェネチア、イタリア
- 2026 「Spinning Ghost Colors」 国際交流基金ベトナム日本文化交流センター、ハノイ

主なグループ展

- 2005 「ベリーベリーヒューマン」 豊田市美術館、愛知
- 2007 「六本木クロッシング 2007：未来への脈動」 森美術館、東京
- 2011 「世界制作の方法」 国立国際美術館、大阪
- 2012 「カルベ・ディエム 花として今日を生きる」 豊田市美術館、愛知
- 2018 「六本木アートナイト 2018」 国立新美術館、東京
- 2019 「高松市美術館コレクション + ギホウのヒミツ」 高松市美術館、香川
- 2021 「DOMANI・明日展 2021」 国立新美術館、東京
- 2022 「生の軌跡」 アーツ前橋、群馬
- 2022 「Study: 大阪関西国際芸術祭」 グランフロント大阪、大阪
- 2024 anonymous art project スターリング・ルビー + 竹村京、鬼頭健吾「キマイラの住处 - 力の飼育法 -」
表参道クロッシングパーク、東京
- 2025 「" The CAPS—Contemporary Art Practice 展" Osaka Art & Design 2025」 高島屋大阪店、大阪

imura art gallery

〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31
開廊時間：火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00
休廊日：日・月・祝祭日

Tel : 075-761-7372
Fax : 075-761-7362
E-mail : info@imuraart.com



小金沢健人 Takehito Koganezawa

1974 東京に生まれる
1998 武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業
1999 渡独 ベルリンを拠点に活動する
2017 帰国 東京を拠点に活動する

主な個展

2004 「DANCING IN YOUR HEAD」資生堂ギャラリー（東京）
2009 「KOGANEZAWA」Haus Konstruktiv（チューリヒ、スイス）
2009 「動物的」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
2011 「PARTICLE TICKLE」Langen Foundation（ノイス、ドイツ）
2012 「LUFTLINIEN」Haus am Waldsee（ベルリン、ドイツ）
2012 「PAINT IT BLACK, AND ERASE」Christopher Grimes Gallery（ロサンゼルス、アメリカ）
2016 「PAINT IT BLACK」Stadtgalerie Saarbrücken（ザールブリュッケン、ドイツ）
2016 「煙のゆくえ」スパイラル（東京）
2019 「裸の劇場」KAAT 神奈川芸術劇場（神奈川）
2023 「Double Sisters, Divided Brothers」Loock Gallery（ベルリン、ドイツ）
2023 「正方形並行生成」Kotaro Nukaga（東京）
2025 「EINS AUF ZWEI, ZWEI AUS EINS」Humboldt Forum（ベルリン、ドイツ）

主なグループ展

2002 「MANIFESTA 4」（フランクフルト、ドイツ）
2003 「6th SHARJAH INTERNATIONAL BIENNAL」（シャルジャ、アラブ首長国連邦）
2005 「横浜トリエンナーレ 2005 アートサーカス」（神奈川）
2009 「VIEWPOINTS AND VIEWING POINTS, Asian Art Biennale」（台中、台湾）
2009 「VOCA 展 2009：新しい平面の作家たち」上野の森美術館（東京）
2010 「六本木クロッシング 2010: 芸術は可能か？」森美術館（東京）
2010 「都市の祝祭, あいちトリエンナーレ 2010」（愛知）
2015 「われらの時代 ポスト工業化社会の美術」金沢 21 世紀美術館（石川）
2018 「マジック・ランタン 光と影の映像史」東京都写真美術館（東京）
2018 「THE GARDEN OF FORKING PATHS」Buxton Contemporary（メルボルン、オーストラリア）
2022 「DOMANI・明日展」国立新美術館（東京）
2024 「小金沢健人 × 佐野繁次郎：ドローイング/シネマ」神奈川県立近代美術館鎌倉別館（神奈川）
2026 「Regards sensibles」リヨン現代美術館（リヨン、フランス）

imura art gallery

〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31
開廊時間：火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00
休廊日：日・月・祝祭日

Tel : 075-761-7372
Fax : 075-761-7362
E-mail : info@imuraart.com



名和晃平 Kohei Nawa

1975 年大阪府生まれ。彫刻家／ Sandwich Inc. 代表／京都芸術大学教授。京都を拠点に活動。
2003 年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。2009 年「Sandwich」を創設。
感覚に接続するインターフェイスとして彫刻の「表皮」に着目し、セル（細胞・粒）という概念を機軸に創作を続ける。彫刻の定義を柔軟に解釈し、鑑賞者に素材の物性がひらかれてくるような知覚体験を生み出してきた。近年では、アートパビリオン《洗庭》など、建築のプロジェクトも手がける。2015 年以降、ベルギーの振付家ダミアン・ジャレとの協働によるパフォーマンス作品《VESSEL》《Mist》《Planet [wanderer]》《Mirage》を制作。2018 年にフランス・ルーヴル美術館 ピラミッド内にて彫刻作品《Throne》を特別展示。2023 年、フランス・セーヌ川のセガン島に屋外彫刻作品《Ether (Equality)》を恒久設置。

主な個展

2002 「CELL」ノマルエディション/プロジェクト・スペース（大阪）
2009 「L_B_S」銀座メゾンエルメスフォーラム（東京）
2011 「シンセシス」東京都現代美術館（東京）
2015 「FORCE」Pace Gallery（ロンドン、イギリス）
2018 「Throne」Louvre Museum（パリ、フランス）
2020 「Oracle」GYRE GALLERY（東京）
2022 「生成する表皮」十和田市現代美術館（青森）
2022 「Aether」Pace Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
2023 「Cosmic Sensibility」Pace Gallery（ソウル、韓国）
2024 「Soma」Galerie Vera Munro（ハンブルク、ドイツ）
2025 「Sentient」スカイザバスハウス（東京）
2026 「Photon Camp」Pace Gallery（ロサンゼルス、アメリカ）

主なグループ展

2010 「第 14 回アジア・アート・ビエンナーレ・バンガラデシュ 2010」（ダッカ、バンガラデシュ）
2013 「犬島『家プロジェクト』」F 邸（岡山）
2013 「あいちトリエンナーレ 2013」（愛知）
2019 「Reborn-Art Festival 2019」（宮城）
2022 「試展－白州模写 「アートキャンプ白州」とは何だったのか」市原湖畔美術館（千葉）
2023 「MOT コレクション 被膜虚実／Breathing めぐる呼吸」東京都現代美術館（東京）
2024 「東 京都 展 (The Echoes of East Kyoto)」WHAT CAFE（東京）
2025 「Treasure 2」ギャラリーノマル（大阪）
2026 「SPRING わきあがる鼓動」（神奈川）
2026 「SPECTRUM 2076 AD —— 来たる世界の意識体」（東京）
2026 「Invisible Garden」（東京）

imura art gallery

〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31
開廊時間：火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00
休廊日：日・月・祝祭日

Tel : 075-761-7372
Fax : 075-761-7362
E-mail : info@imuraart.com



村瀬恭子 Kyoko Murase

1963 年岐阜県岐阜市生まれ。86 年に愛知県立芸術大学を卒業し、89 年に同大大学院修了。
90 年から 96 年まで国立デュッセルドルフ芸術アカデミーに在籍。93 年には、コンラッド・クラペックより
マイスター・シューラー取得。
26 年間暮らしたデュッセルドルフから 2016 年に帰国し、現在東京を拠点に活動。

主な個展

1997 「I'm sleeping in this room」 Stichting de Bank (エンシェーデ、オランダ)
1998 「Daydreams」 Galerie Van Laethem (ラナーケン、ベルギー)
1999 「Sleepers」 タカ・イシイギャラリー (東京)
2004 「To The Mountain Lake」 タカ・イシイギャラリー (東京)
2006 「月と森とシダの下のかたつむり」 タカ・イシイギャラリー (東京)
2007 「セミとミミズク」ヴァンジ彫刻庭園美術館 (静岡)
2007 「Around the lilac rock」 Cohan and Leslie (ニューヨーク、アメリカ)
2010 「Fluttering far away」 豊田市美術館 (愛知)
2018 「絵と、vol.3 村瀬恭子」 ギャラリー αM (東京)
2019 「park」 タカ・イシイギャラリー (東京)
2024 「Only Yesterdays」 タカ・イシイギャラリー 六本木 (東京)

主なグループ展

1999 「In de Ban van de Ring」 Prefectural Center of Fine Arts – Begienhof Museum (ハッセルト、ベルギー)
2001 「THE STANDERD」 直島コンテンポラリーアートミュージアム (香川)
2002 「MOT アニュアル 2002 – フィクション？ 絵画がひらく世界 –」 東京都現代美術館 (東京)
2004 「六本木クロッシング」 森美術館 (東京)
2004 「タイム・オブ・マイ・ライフ」 東京オペラシティアートギャラリー
2007 「Red Hot: Asian Art Today from the Chaney Family Collection」 ヒューストン美術館 (ヒューストン)
2009 「放課後のはらっぱ—櫃田伸也とその教え子たち」 愛知県美術館、名古屋市美術館 (愛知)
2010 「絵画の庭—ゼロ年代日本の地平から」 国立国際美術館 (大阪)
2019 「アイチアートクロニクル 1919-2019」 愛知県美術館 (愛知)
2021 「森と水と生きる」 長野県立美術館 (長野)
2021 「友達と – „tomodachi to “. Mit Freund*innen」 Kunsthalle Düsseldorf (デュッセルドルフ)
2023 「Body, Love, Gender」 Gana Art Center (ソウル、2023 年)
2024 「日本現代美術私観：高橋龍太郎コレクション」 東京都現代美術館 (東京)

imura art gallery

〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31
開廊時間：火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00
休廊日：日・月・祝祭日

Tel : 075-761-7372
Fax : 075-761-7362
E-mail : info@imuraart.com

